

あおぞら21

出口
EXIT
2 上野吉無田
Ueno-Yoshimuta

ゆずり車線
SLOWER TRAFFIC LANE
130m 先

熊本地震関連工事契約1件を可決(10月会議) … 2
災害時応援協定から交流を図る(政務活動報告) … 4

表紙：中山間地域のアクセス向上へ！小池高山IC～山都中島西IC間開通(12月16日開通：上野吉無田IC周辺)

10月定例会

30年11月30日

No.134

熊本・みふね町議会

熊本地震関連工事契約 1 件を可決

10月会議を10月11日に開催した。

工事請負変更契約の議案 1 件を審議採決した。

10 月議会で決まったこと (10月11日)

議案 号数	簡易議案名	概 要	質疑・討論 の有無	採決 結果
議案 61	工事請負変更契約の締結について	災害関連効果促進事業（田代④）工事	有	全会一致で 可決

委員会報告

災害復旧工事現場を視察

災害復興支援特別委員会委員長 清水 聖

10月5日、災害復旧関連工事の進捗状況及び工事現場周辺の状況等を確認するため、各工事箇所の視察を行った。まず、田代地区の災害関連効果促進事業工事現場、中原団地の住宅復旧工事及び大規模盛土滑動崩落防止工事現場、1丁目災害公営住宅建設予定地、小坂インター団地の大規模盛土滑動崩落防止工事現場、小坂災害公営住宅建設予定地

を視察し、担当課より工法や工期等について説明を受けた。

多数行われている復旧工事の一部ではあるが、直接現場を訪れることにより、早急な復旧工事の完了を再認識することができた。視察後は住民に対し、進捗状況や完成時期について周知を行うよう担当課へ要請を行った。今後も、災害復旧工事における進捗状況の確認作業を続けていく。



視察の様子（中原団地）

委員会報告

議会のあり方を探る ～伊藤教授と意見交換～

議会改革推進特別委員会委員長 福永 啓

10月25日審議会室において、熊本大学法学部伊藤洋典教授及びゼミ生3名を招き、御船町議会のあり方について意見交換を行った。

まず、伊藤教授から「制度としての地方議会」、「いま地方議会に求められていること」、「議員の担い手をどう確保するか」についてお話し頂いた。

「制度としての地方議会」

地方自治の本旨は団体自治・住民自治であり、団体自治とは自治体が自分の意思を持ち国などから自立すること、住民自治とは住民が自分の住んでいる地域について自己決定権を持つということであり、自治体は議会と首長がそれぞれ自己決定権を持つ二元代表制となっている。

1999年の地方分権一括法で、機関委任事務（自治体が法令に基づいて国から委任され処理する事務）が廃止されて以降、事務局の拡充、政策立案能力、監視能力などの向上、議会運営の工夫、住民参加の拡大、担い手の拡大など、地方議会の活性化が言われるようになってきたが、地方分権というと、首長に対する権限の

移譲などがクローズアップされがちであり、議会の活性化には結びつきにくかったのではないか。

「今地方議会に求められていること」

自治体の主役は住民であり、議員は住民の代表であるが、住民から白紙委任されているわけではない事、議会本来の役割などをきっちり認識する必要がある。

議会は住民の意思と利益を代表し、行政を監視・牽制し、地域内の対立を調整し、地域社会をまとめあげ安定させる機関であるが、地方議員のアンケートを見ても住民代表なのに住民から信頼されていないなど、住民との関係が薄いことや住民から理解されていないことを嘆く回答も多い。

より広く住民の声を聞き、その声を議会で議論し、選別し、町の政策課題として執行部へと提示し、住民と議会との関係性を太くする事が必要。
「議員の担い手をどう確保するか」

議員構成が特定の業種、特定の産業、特定の性別に偏っており、住民のニーズと議会の議論の波長があっていない。議員は多様な住民の代表であり、ある程度の数とある程度の報酬が必要であるなどのお話を頂いた。

伊藤教授及びゼミ生との意見交換

ゼミ生の方々からは、「議会のイメージをそもそも持っていない」、「議会と自分が結びついている感覚がない」、「女性のニーズがもっと反映され

ればよい」、「議員とのパイプがなく、要望や意見等は行政側に伝える」、「議員になる入り口自体がわからない」などの意見があった。

議員からは通年議会に対する質問や委員会審議に対する質問、議員のなり手不足に対する質問などがあった。

大変有意義な意見交換であり、今後このような意見交換会を通して御船町議会のあり方を探り、年度末までには方向性を示すことができればと思う。



伊藤教授、ゼミ生との意見交換の様子

委員会報告

陳情 水越「粒麦地区」及び「馬立赤松地区」 水道衛生環境改善について継続審査

産業厚生常任委員会副委員長 福永 啓

10月24日、陳情内容について執行部から現状の説明と陳情者から現状と陳情の趣旨について説明を受け、その後現地調査を行った。

粒麦地区においては、沢の水を引き込む取水口、砂ろ過施設及びろ過した水を貯める



沢から水を引き込む着水槽（粒麦地区）

貯水槽の確認、馬立赤松地区においては、沢の水を引き込む着水槽、着水槽から貯める貯水槽の確認を行った。

現地確認の後、再度審議室において各委員より意見を求めた。

＜委員の意見＞

- 1 浄水施設を設置した場合、費用はどの程度かかるのか。
- 2 どのような施策が迅速かつ安全にできると思うのか。
- 3 上水道（田畑水源）から引いた場合、水源の水量は足るのか。

4 水道事業に取り込んだ場合、国、県の補助はあるのか。

5 地区水道の施設整備補助はあるのか。

地域住民に安心安全な水を供給することは、町の基本的役割でもあることから、浄化システムを設置した場合、上水道を設置した場合など、どのような方式が良いのか執行部側で調査し、さらに委員会で協議をする必要があると考え、全会一致で継続審査とした。

災害時応援協定から交流を図る

御船町議会議員 塚本勝紀

10月2日から3日にかけて、議員2名（塚本、藤川）で愛知県瀬戸市、名古屋市へ視察研修を行った。

災害時相互応援に関する協定

本町は、熊本地震から丸2年、2018年4月20日に瀬戸市と「災害時相互応援に関する協定」を締結した。

今回は協定を締結した瀬戸市を訪問し、熊本地震時の支援に対するお礼と意見交換を行った。

経営戦略部政策推進課の加藤主幹、松井参事の話によると、「瀬戸市は、海はないものの、南海トラフ地震の可能性を秘めており、その予測は困難である。災害時には、御船町や北海道に職員を派遣しており、緊張下での対応は困難であったが、この経験を生かしたい。」との報告があった。

また、伊藤市長が熊本県に

縁が深く、御船町の恐竜と瀬戸市の瀬戸焼のコラボレーションで子ども達との交流も図りたいという話があがっているとのことだった。

その後、加藤主幹の案内

で、瀬戸3万年の歴史を垣間見ることができる「せと・まるっとミュージアム」の拠点施設、瀬戸蔵の視察を行った。

今回、瀬戸市への視察は初めてであったが、「災害時相互



対応いただいた瀬戸市職員

応援に関する協定」の締結がなされたことにより、町、人の交流が広がっていく事は大変意義深いものと感じた。

ディノアドベンチャー名古屋視察

本町の恐竜博物館では様々なイベントが行われているが、今回は動く恐竜に着眼し、「ディノアドベンチャー名古屋」に現地視察を行った。

愛知県営の都市公園内であるが、民間活力を活用した公園施設として平成28年7月1日に樹林を活かした遊戯施設としてオープンした。約900mの上り下りが多い樹林の中を歩くと、園内の至る所に実物大近くの動く恐竜がいる。その数は21体で、所要時間は30～40分ほど。人感センサーで

感知すると声を上げて動く。なかなか迫力があり圧巻である。年間約8万人が訪れる。出口には子どもが喜ぶような恐竜グッズの売店がある。

自然と恐竜を併せ持つ御船町においても、観光付加価値にまだまだ可能性が広がってくる。やり方を模索し、収益を生む町となるよう官民一体となって協力し合っていく時だと考える。



施設に設置されている恐竜

10月の議会活動

月日	項 目	参加者	場所等
2日	上益城消防組合臨時議会	組合議員	上益城消防本部
4日	議会運営委員会	委員	委員会室
	平成30年度熊本県町村議会議員研修会	議員11名	嘉島町民会館
5日	都市計画審議会	田端議長 藤川総務文教常任委員長	大会議室
	全員協議会	全議員	審議会室
	災害復興支援特別委員会	委員	審議会室及び現地
9日	若宮神社例大祭	田端議長	若宮神社
	熊本県防災・危機管理トップセミナー	清水副議長	県庁
11日	10月議会	全議員	議場
	議会広報編集特別委員会	委員	議員控室
	議会改革推進特別委員会	委員	委員会室
22日	九州中央自動車道建設促進大会	田端議長	東京
24日	議会広報編集特別委員会	委員	議員控室
	総務文教常任委員会	委員	委員会室
	産業厚生常任委員会	委員	審議会室
25日	議会改革推進特別委員会	委員	審議会室
27日	上益城郡保育研究大会	田端議長	カルチャーセンター
	環境フォーラム in みふね2018	議員8名	カルチャーセンター
29日 ～ 30日	上益城広域連合議員先進地視察研修	組合議員	天草市
31日	第4回熊本中央一般廃棄物整備促進協議会	組合議員	益城町
	議会運営委員会	委員	委員会室

かがやく



音楽大学のある町

全国に930ほどある町村で大学があるのは17町村、全国の768大学のうち音楽だけの大学は12校です。九州にはどちらもひとつだけ。それが御船町と平成音楽大学です。

少子化・都会志向という地方の大学には厳しい状況の中、平成音楽大学は熊本地震で校舎の8割近くが被災しました。懸命な復旧による一ヶ月後の授業再開日には、余震の続く地に学生たちが戻ってきてくれるのかと心配しました。全員が揃ったあの日のことを思い出すと今でも胸が熱くなります。

インターネットでは「日本の九州にある音楽大学が地震で大変なことになっている」と世界中に伝わっていました。音楽が絆となって国内外から多くの支援をいただきました。それを励みに、今度は自分たちが、「音楽の力（チカラ）」を合言葉にして、熊本を元気にする活動を始めました。

これが認められて先日、世界三大社会奉仕団体である国際キワニス日本地区（本部・アメリカ）から表彰されました。「熊本地震後の地域文化の保持発展に寄与した」ことが受賞の理由です。

昨年、御船町と平成音楽大学は包括連携協定を結びました。今後は町と大学相互の活性化に向けて協力していきます。町民の皆様から大切にされる大学でありたいと願います。

熊本音楽短期大学の開学からの47年間、御船町は水害や地震により貴重な文化資源をなくしました。ただ音楽は災害でも失われることなく残っていく文化です。来年3月には新校舎が完成します。九州で唯一の「大学のある町」で、九州唯一の音楽大学が、その文化を育み守り続けます。



滝川
平成音楽大学 教務局長
浦上 仁史さん

議会の予定 12月

3日	議会運営委員会
4日	御船甲佐衛生施設組合議会
10日	全員協議会(予定)
13～18日	議会(予定)
20日	上益城消防組合議会
26日	御船地区 衛生施設組合議会
28日	仕事納め
28～30日	消防団年末警戒

編集後記

「念願の開通だ」

国土交通省熊本河川国道事務所は、十一月七日、整備を進めてきた九州中央自動車道の小池高山インターから山都中島西インター間、十・八キロメートルを十二月十六日に開通すると発表しました。本来は、来年三月と聞いていたもので、三か月早く開通です。

この道路が計画された時、御船インターから延岡市まで約九十五キロメートル、熊本県側が四十四キロメートルと、長い距離及び莫大な費用、さらに山間地域の急傾斜等で本当にできるか不安でした。ところが、平成二十六年三月に嘉島ジャンクションから小池高山インター間、一・八キロメートルが開通され、今回山都中島西インターまで開通します。これにより

議会広報編集特別委員会

発行責任者	田端 幸治
委員長	岩永 宏介
副委員長	中城 峯雄
委員	岩田 重成
委員	清水 聖
委員	田上 忍
委員	森田 優二